

# 「家庭の日」について考えてみましょう①

青少年を取り巻く環境は、高度成長期を基点として大きく変化し、家庭や地域の教育力の低下などが起因する様々な問題行動へとつながり、非常に危惧すべき状況にあるといえます。

世界でも類を見ない程の経済成長を遂げた日本は、その代償として、子ども達の『豊かな心を育む』という大事な部分を見過ぎてきました。結果的に、青少年による犯罪が年を追うごとに増えつづけ、改めて家庭生活や地域教育の重要性を強く感じずにはいられません。

そこで、今月から3回にわたって『家庭の日』について掲載しますので参考にしてください。

執筆者 『学校週5日制時代を考える会』 平井 幸成

## 【今、なぜ「家庭の日」か】

毎月第一日曜日を「家庭の日」と定め、運動が展開されてきました。長い年月の経過は「家庭の日」の意義も「家庭の日」ということばさえも忘れかけているのではないでしょう。

この運動が生まれた背景には、青少年の非行が急増し、大きな社会問題となったからです。

青少年の非行の原因には様々なことが考えられます。

物質的豊かさ、生活の豊かさ、また、生活様式の変化など、こうした社会の変化は青少年に多くのプラス的影響を

衝動的であり、集団的で凶悪化してきています。

報道される非行は、青少年の中の一握りの人かも知れませんが、環境や社会変化の中にあつて青少年は、今や誰もが問題行動を起こし得る状況にあるといえるのではないのでしょうか。



与えると同時に反面好ましくない影響を与えたことも否定できません。

物質的豊かさや生活の便利さは、青少年の忍耐力や抑制力を減退させたといわれ、生活様式の変化は、自然離れを生み、人間関係を希薄化させ社会参加意欲の減退を生じ、生活経験の幅をせばめているといわれています。

子どもが生まれて最初に所属する家庭は、人間形成のもと基本的部分を育てる場として、極めて重要な意味をもっています。

青少年の健全育成は、家庭を抜きにして考えられません。最近の青少年の問題行動は

待は、今まで以上に大きく「家庭の日」を今まで以上に重視する必要があります。

## 【「明るい家庭」づくり】

都留市の二十一世紀クラブが「家庭教育振興研究委員会」を設立し、平成十年から実施された「市民委員会」の認定を受け、研究を進め、小冊子にまとめましたので、参考のため、紹介方々内容を記します。

### (1) 乳幼児期の親の在り方

- ◎情緒の安定と人間に対する基本的信頼は、人間が生きていく上で最も大切です。
- ◎この時期は、父母との身体的接触(スキンシップ)特に母親に抱きしめられて育つことが大切です。
- ◎三歳前後に当然起こるはずの第一反抗期は、独立性・自立性を発揮させる大切な時期です。

◎この大切な反抗期を過保護、過干渉といった誤った育て方によって素通りしてしまっている例が多いようです。

◎第一反抗期を素通りした子どもは、十四歳頃の思春期を迎えての第二反抗期にもともに適応することが困難になる場合が多いのです。

### (2) この頃の親の特徴

◎干渉・期待型と放任・無関心型という両極に分化する傾向がみられます。

◎家庭内で子どもの役割を分担させることをおろそかにしています。

◎しつけ方で、その時々で異なり一貫性に欠けます。

◎夫婦関係が不和であることは、子ども心に計り知れない傷を与え、希望を失わせる原因にもなっています。親としての自覚が大切です。

### (3) 明るい家庭づくり十二章

- 1 ほめ方とさとし方で、よいしつけ。
- 2 知らず知らずに親は手本になつていく。
- 3 両親も子ども心で仲間入り。
- 4 子ども様子知つて親の役。
- 5 子どもとの約束守るよい家庭。
- 6 物よりも心を子どもに与えよう。
- 7 何事も気安く話す子どもに育て。
- 8 いつまでも子ども子どもと思わずに。
- 9 子ども立場、親の立場を認めよう。
- 10 かげ口や悪口をなくす、家の中。
- 11 どの子どもも、みんな我が家の大事な子。
- 12 子どもは、十色みんなそれぞれの色に咲き。